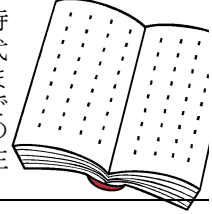


万葉図書・情報室だより49号

『万葉集』の古注釈



万葉集研究では、江戸時代までの注釈書を古注釈とよんでいます。ここでは鎌倉時代から江戸時代の主な古注釈をご紹介します。（＊は当館で所蔵している分類番号と書籍名。）

仙覚『万葉集註釈』（仙覚抄）

文永6年（1269）成立

鎌倉時代に万葉集の約950首の歌に注を付けた。仙覚は、万葉集の本文研究に大きな成果をもたらした人物である。

*M4 マンヨ 万葉集叢書8

北村季吟『万葉拾穂抄』

貞享3年（1686）成立

万葉集初の全歌注釈。古来の説を集成している。

*M42 キタム 万葉拾穂抄

*M42 コナン 万葉拾穂抄 影印・翻刻

契沖『万葉代匠記』（初稿本）

貞享4年（1687）成立

水戸徳川家の命により、下河辺長流の後任として執筆した全歌注釈。

契沖『万葉代匠記』（精撰本）

元禄3年（1690）成立

初稿本を改訂し、和書・漢籍・仏典など、多岐に渡る出典を指摘。

精緻な考察で、万葉集研究には必読。

*121 52 ケイチ 契沖全集1〜7

荷田春満『万葉集解案抄』

享保年間（1716〜35）

巻一の全歌注釈

*M4 マンヨ 万葉集叢書2

荷田春満（講）荷田信名（記）『万葉集童蒙抄』

享保10年（1725）頃成立

巻二〜十六までの注釈

*M4 カタノ 荷田春満全集4〜6

『万葉集割記』

元文年間（1736〜41）成立

巻十七〜二十の注釈

*121 52 シンへ 新編荷田春満全集5

解案抄・童蒙抄・割記の三書により、荷田家の万葉集研究を知ることができる。

賀茂真淵『万葉考』（狛諸成補訂）

明和五年（1768）刊行

契沖と並び、多くの国学者に影響を与えた全歌注釈。ただし、真淵独自の説により、諸本の万葉集とは異なる巻の順番で記されているため、歌を探す時には注意が必要。

*121 52 カモノ 賀茂真淵全集1〜5

本居宣長『万葉集玉乃小琴』

安永8年（1779）刊行

巻一〜四の注。

真淵を師と仰いだ宣長の、万葉集の注釈としてまとまった唯一の書。その他の宣長説は『万葉集問目』や、『万葉問聞抄』などにも残されている。

*121 52 モトオ 本居宣長全集6

橘（加藤）千蔭『万葉集略解』

寛政8年（1796）成立

全歌注釈。真淵門下。要を得た名著として広く読まれ、万葉学を普及。江戸期の注釈で最も流布した。

*M42 ヨサノ 万葉集略解1〜8（文庫）

鹿持雅澄『万葉集古義』

天保10年（1839）成立

全歌注釈。本文の注釈のほかに、枕詞・人物・地理・言語などの万葉集

に関する各方面の研究を網羅している。近世の万葉研究を集大成した。

*M42 カモチ 万葉集古義1〜12

〈参 考〉

万葉古代学年報15号185ページ

○新着図書案内○

☆古代東国の地方官衙と寺院

（佐藤 信編／山川出版社）

☆万葉集名歌選釈

（保田與重郎／新学舎）

☆筑紫万葉恋ひごころ

（上野誠／西日本新聞社）

☆古文書料紙論叢

（湯山賢一編／勉誠出版）

利用案内

開館時間―午前10時〜午後5時半

休館日―月曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始・展示替日

図書室のご利用は無料です

閲覧でのご利用になります。

コピーサービス 白 黒一枚 10円

カラー一枚 50円

奈良県立万葉文化館万葉図書・情報室

奈良県高市郡明日香村飛鳥一〇

0744-54-11850（代）